

第2回

竜山石はどんな石 ― 竜山石と大谷石 ―

竜山石は古墳時代から採石されはじめ、中世の石造物や近代の歴史的建造物などに使用され、さらに現在も採石されつつある貴重な石材です。竜山石は、一般に凝灰岩の仲間であるとされています。凝灰岩というのは火山の噴火で放出された火山灰や石のかげらがたまって岩石になったものです。凝灰岩類の石材産地は日本全国にあり、そのうち主な石材産地を示すと図のようになります。

主な凝灰岩類の石材産地



竜山石と大谷石の形成時期

時代	石 材	日本
（万年 前）		
260	第四紀 新第三紀 大部分の凝灰岩類石材 大谷石	日本列島 日本海形成
2300	古第三紀	大陸の一部
6550	白亜紀	
14550	中生代	
	竜山石	

凝灰岩の石材として最もよく知られているのは、おそらく大谷石でしょう。大谷石は栃木県宇都宮市周辺に分布し、耐火性に富み、

文化財総合的把握モデル事業

ひと・まち・石

問合先 生涯学習課文化財係
☎ 448-8255

軽く軟らかいため、建物の壁材や塀によく使用されています。その知名度や使用頻度から「東の大谷石、西の竜山石」という言い方ができるかもしれません。しかし大谷石には、風化に弱く、もろく

崩れやすいことと、空隙が多く、組織な細工には不向きであるという欠点があります。日

代のもので、いずれも似た性質をもっています。

それに対して、竜山石は中生代白亜紀の、おそらく八千万年〜九千万年前に形成された古い岩石です。そのため、たとえば石垣のような強度を必要とする部分にも使われ、また古墳時代に造られた石棺や中世の石造物が破損されることもなく残されているなど、新しい時代の凝灰岩類石材と違って丈夫で、風化にも強い性質があります。また、全体が均質で空隙がないため加工しやすく、細かい細工も可能です。竜山石は極めて優れた石材なのです。

さて、日本列島には竜山石と同じ頃に噴出した凝灰岩類が大量に分布しています。しかし、それらが石材として加工され、石造物などに使用されることは非常にまれです。なぜ竜山石だけが優れた石材となったかこの疑問については、稿を改めて紹介することにしましょう。

（兵庫県立人と自然の博物館・先山 徹）